

DOCUMENT Eye

series—202

混合交通を観察する



後部座席同乗者はシートベルトを 着用しているか?

●WHY

今年10月に警察庁と(社)日本自動車連盟(JAF)が合同で『シートベルトの着用状況調査』を実施した結果、一般道路における運転席での着用率は93・8%、助手席は83・4%、後部座席は7・5%であった。

一般道路における自動車運転中の致死



子どもはチャイルドシートを使用しているが、隣に座る女性はシートベルトを着用していない

率を比べると、シートベルト非着用者は着用者の約33倍という結果が出ている(平成17年)。このようにシートベルト着用は、交通事故の際に負傷の程度を軽減でき、乗員保護のために有効な安全装置である。

しかし、現在運転席および助手席では、シートベルトの着用が道路交通法で義務付けられているが、後部座席では、6歳未満の子どもが乗車する際のチャイルドシート使用のみである。

●観察場所/千葉県船橋市浜町2丁目付近
●観察日/11月3日(金曜日)
●天候/晴れ
●観察時間/10:50~12:50
●観察者/3名

●後部座席同乗者のシートベルト着用状況を観察する 乗用車の後部座席同乗者512人中 シートベルトを着用していたのは11人(2・1%)

幼児のチャイルドシート使用は、92人中40人(43・5%)

観察した。約1年が経過した今、同一場所ので小学生以上を対象に同様に観察を実施した。



後部座席ではシートベルトの着用が少なかった



前席に身を乗り出すなど、ジッとしていない人も目立つ

●WATCHING 成人、高齢者の着用者は 全員女性であった

観察地点は千葉県船橋市にある大型商業施設近くの一般道路。昨年同様に天候に恵まれ、休日ということもあり多くの買物客がクルマを利用して訪れていた。その多くは乗用車で、後部座席同乗者は子どもから高齢者まで年齢層も幅広くあった。

午前中の2時間の観察で後部座席同乗者がいたクルマは444台。小学生以上の後部座席同乗者は計512人だった。そのうちシートベルトを着用していたのは、11人(2・1%)であった。昨年と比較すると、小学生の着用率が低下したため、全体の着用率が4・6%から2・1%に低下している。幼児のチャイルドシート使用は、92人中40人(43・5%)であった。

小学生では、車内で立ち上がって遊ぶなど、ジッとしていない子どもも目立った。また、成人でも、前席の人と話をする際に、背もたれに寄りかからず

を乗り出している様子が観察された。シートベルトを着用していた11人のうち、小学生が5人。2人は、姉妹と思われる、並んでシートベルトを着用していた。中学生と思われる男性2人は、いずれも運転席、助手席に両親と思われる2人が乗車し、後部座席に単独で乗車していた。成人、高齢者の着用者4人はいずれも女性であった。高齢者のうち1人は、介護施設の送迎車両に乗っていた。

●PROPOSE 乗車中は、全席で シートベルトの着用を

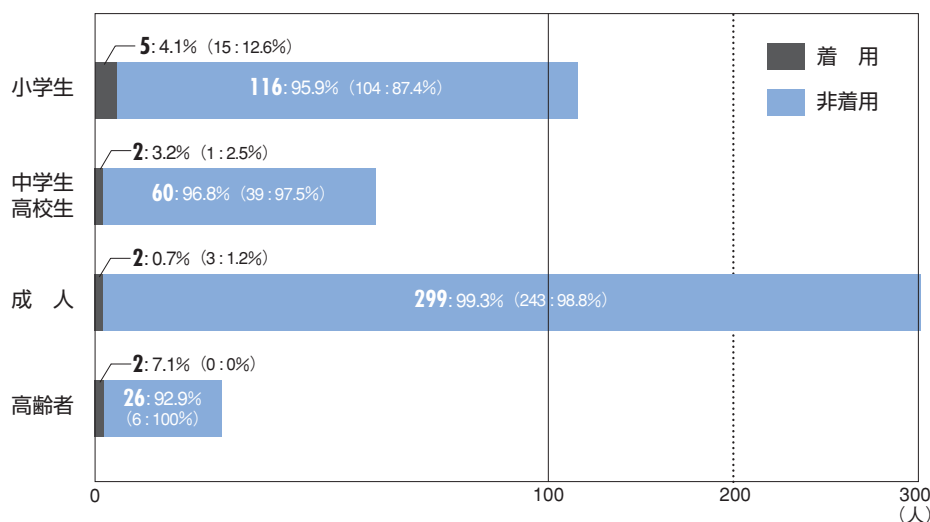
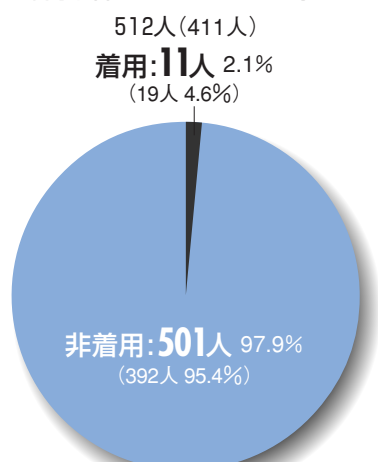
クルマには乗車定員分のシートベルトが装備されている。しかし、後部座席でシートベルトを着用している人は極めて少ないのが現状である。

シートベルトを着用していないと、衝突事故などの際、後部座席同乗者が車内で頭部をぶついたり、あるいは前席の乗員にダメージを与えてしまうこともある。また、車外に放出されてしまい非常に危険だ。

こうした事実を認識し、クルマに乗る時は、後部座席を含む全席でシートベルトを着用することを習慣にして、安全性を確保してほしい。

また、ドライバーは同乗者の命を守るため、すべての乗員にシートベルト着用を呼びかけ、安全に対する意識を高める必要がある。

●後部座席同乗者のシートベルト着用状況 ※カッコ内の数字は昨年の観察時



※小学生(7~12歳)、中学生・高校生(13~18歳)、成人(19~64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による